

# えんがわ通信

「えんがわ」という名前には、人と人とのつながりが生まれ、「縁」が「輪」ようになって広がってほしいという願いが込められています。

発行 ＊ 一般社団法人パーソナルサポートセンター 就労支援事業部

住所 / 仙台市青葉区二日町6-6 シャンポール青葉201

電話 / 022-395-6258

WEB / http://www.personal-support.org/

## 食品加工体験スタート

### 第2回は仙台味噌づくり

一般社団法人「パーソナルサポートセンター」と宮城大学食産業学部は

6月29日、太白区旗立にある同大食品加工棟で、食品加工体験を実施した。



真剣なまなざしで作業に取り組む参加者＝宮城大学太白キャンパス内

体験は、被災者の栄養改善と交流の場の確保が目的。2回目となった今回は、同大の石田光晴教授（畜産食品学）の指導で、太白区あすと長町の仮設住宅入居者ら9人が「仙台味噌づくり」を行った。

この日の味噌づくりでは、参加者が圧力釜で大豆を蒸したり、麴（こうじ）や塩などを混ぜ合わせたりする作業に挑戦。蒸しあがった大豆を加えるなどして、容器に詰め込み、最後に発酵室に保管した。

参加者は「自分で作った味噌で料理を作ってみたい」「家庭でも挑戦してみたい」などと話しながら、味噌づくりの工程を真剣な表情で学んでいた。

今回の体験では、産地によって味噌の塩分濃度や製造の工程が違うことも学んだ。今後は、容器の中の味噌を均一に熟成させるため、10日おきに「天地返し」を続け、約2カ月後に味噌を完成させる予定という。

今回の体験では、産地によって味噌の塩分濃度や製造の工程が違うことも学んだ。今後は、容器の中の味噌を均一に熟成させるため、10日おきに「天地返し」を続け、約2カ月後に味噌を完成させる予定という。

体験は、仙台市内の仮設住宅の入居者を対象に5月から11月までの7カ月間実施。月1回のペースで、ソーセージなどの加工方法などを石田教授が教える。加工する食品は毎月、参加者の希望に合わせて決定する方針で、作り方の流れをまとめた手順書を同大の教授と学生ボランティアが作成する。

また、ことし5月には約1万7000世帯に対し、「復興公営住宅への入居意向調査」を実施しました。

調査については、昨年度も実施したのですが、震災からまだ1年経過してないということもあり、今後に関してまだ決めかねているという方が多かったため、改めて調査を行いました。



ころころにこまる 販路ひろがる

カラフルな羊毛を丸めたマスコット「ころころにこまる」の販売が6月からスタート。市内の飲食店などで販売しており、客らの間で人気を集めている。愛嬌のある表情が受け、これまで県内で325個を販売。今後は山形県や東京都内にも販路を拡大する予定という。

「にこまるプロジェクト」の一環。料理研究家の枝元なほみ氏が主宰する一般社団法人「チームむかご」（東京都港区）が取り組む。「ころころ」は同プロジェクトにボランティアで参加する太白区の主婦が「場所を選ばずに、気軽に集まって作ることができる商品」と

羊毛を手でまるめて作るマスコットを考案。2011年12月から製作を始めた。現在、仙台市内の仮設住宅入居者らが中心となって製作しており、メンバーは週1回のペースで太白区のコミュニティ・ワークサロン「えんがわ」に集まり、会話

を楽しみながら、作業を続けている。参加者の一人は「作るのが楽しくて、出荷するときは、わが子を送り出す感覚になってしまいうんです」と笑顔を見せる。「ころころ」の販売価格は1個300円。うち120円が作り手の収入となる。

長町のコミュニティ・ワークサロン「えんがわ」で行う予定。午前と午後の1日2回、計3日間行い、参加者は、1回あたり2000円相当の商品券を謝礼として支払

PSC就労支援事業部は8月中旬に実施する「復興定期便」（仙台市からのお知らせ）の封入作業の従事者を募集している。今回は東日本大震災発生時に

仙台市青葉区・泉区・太白区に住んでいた被災者が対象。8月22日から3日間、市のお知らせなど数種類の冊子を封筒に入れ、作業を太白区あすと

して暮らせるよう、なるべく早く住宅の建設に着手したいと考えています。家賃はいくらになるのか、子どもの学区はどうなるのかなど、早い段階で情報提供を行うことで、さまざまな不安を解消していきたいです。



## 被災地を語る⑥

### なるべく早い公営住宅の着工と情報提供でみなさまの不安解消したい。

仙台市 都市整備局 公共建設部 市営住宅課 復興公営住宅室 高橋 清一 室長

復興公営住宅室は本年度、市営住宅課に新設されました。市営住宅課は昨年9月、仮設住宅入居者を対象に「住まいに関する意向調査」を実施するなど、復興公営住宅を供給するための目標戸数や立地などの検討をしてきました。現時点の供給目標は2800戸です。うち約1700戸については、17地区で整備を進めることとしています。立地は、交通の利便性に加え、学校やスーパーなどの施設が周辺にあることなどを考慮して選びました。

また、ことし5月には約1万7000世帯に対し、「復興公営住宅への入居意向調査」を実施しました。調査については、昨年度も実施したのですが、震災からまだ1年経過してないということもあり、今後に関してまだ決めかねているという方が多かったため、改めて調査を行いました。

復興公営住宅の設備に關してですが、入居される方と地元の人とが、つながりをもつてほしいという願いもあり、復興公営住宅に設置される集会所を地域の方々の活動にも使えるような取り組みを進めていきたいと考えています。

また、復興公営住宅の敷地内に設置される広場は、地域住民の避難場所として活用できるように計画しています。

市民のみなさまが安心して暮らせるよう、なるべく早く住宅の建設に着手したいと考えています。家賃はいくらになるのか、子どもの学区はどうなるのかなど、早い段階で情報提供を行うことで、さまざまな不安を解消していきたいです。

「わっくわあく」の所在地  
住所：仙台市青葉区二日町6-16  
相談予約：022(395)6323  
●市営地下鉄  
勾当台公園駅北1より徒歩3分  
北四番丁駅南1より徒歩5分  
●市バス・宮交バス  
県庁・市役所・青葉区役所前停留所より徒歩2分



「えんがわ」な人々⑦ 野口昌志のくちまきし

震災後、県内の避難所や仮設住宅を回り、被災された方々の就労に関する調査や相談を受けていました。活動を続ける中で、被災地の就労状況に対し、問題意識を持つようになると同時に、これまでの経験を活かしたいという思いが強まり、ことし4月、PSCに入社しました。

PSCでは、就労支援相談センター「わっくわあく」で、企業開拓チームのチーフとして、求職者のニーズに合った就職先や企業実習先を確保する仕事をしています。

人材サービス会社の経営や再就職支援など、これまでに関わってきた仕事の経験を生かし、求職者の意識や現状を的確に把握しながら、新しい仕事という「出口」を見つけてお手伝いできればと思っています。



# TOPICS(8月)

## 就業や進路などに関する個別相談

専門のカウンセラーによる、職業や進路・キャリア等に関する個別相談(1人50分)を行います。

(就職のあっせんではありません)

■日時: 8月24日(金) 10:00~18:00

■場所: AERビル6階 情報・産業プラザ内

■対象: ①学生・求職中の方(年齢不問)

②在職者(30代まで)

■定員: 28名

■申込締切: 8月17日(金) 必着

※雇用保険の失業認定の際に求職活動実績として申告できます。

### <申込方法>

郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・ご希望の時間を記入し、郵便・FAX・Eメール等でお申込み下さい。

※ご希望の時間にならない場合もございますので予めご了承願います。

※申込締切後に応募者全員に決定通知のご連絡をいたします。(応募多数の場合抽選)

■お問合せ先: (公財) 仙台市産業振興事業団

〒980-6107 仙台市青葉区中央1-3-1

TEL: 022-724-1212, FAX: 022-715-8205

Eメール: koyoushien@siip.city.sendai.jp

## のびすく仙台

◎利用できる人 主に乳幼児とその家族

◎住所 仙台市青葉区中央2丁目10番24号  
(仙台市ガス局ショールーム3階)

◎問い合わせ TEL: 022-726-6181

FAX: 022-214-5071

### 「やさしフラ」(申込み不要)

ステキな音楽に合わせてフラを楽しめます。初めての方でもできます。お子さんと一緒に踊ってみませんか?

■日時: 8月3日(金) 10:30~11:30

■講師: 鈴木 美香さん

■場所: のびすく仙台 こどもひろば

### 「母乳なんでも相談」(受付中)

母乳に関することならどんな相談にも応じます。個別相談なのでゆっくりお話しができます。

■日時: 8月8日(水) 14:30~16:30

■相談員: NPO法人みやぎ母乳育児をすすめる会

■場所: のびすく仙台 情報コーナー

■定員: 8名(ひとり15分程度)

# えんがわ通信求人コーナー(7月)

このコーナーでは、就労支援相談センター「わっくわあく」(PSC就労支援事業部)と提携する特定非営利活動法人「ワンファミリー仙台」が毎月、みなさまにさまざまな求人情報をお届けします。

※特定非営利法人「ワンファミリー仙台」無料職業紹介事業(許可番号04-ム-300010)

## 社会福祉法人 青葉福祉会

※介護分野緊急雇用創出事業

■職種 介護職員

■雇用形態 臨時職員

■年齢 不問

■待遇 基本給 140,000円

■就業場所 青葉区荒巻

■就業時間 (1) 7:30~16:30  
(2) 9:00~18:00  
(3) 13:00~22:00

■加入保険 雇用・労災・健康・厚生

■免許資格 要普免、介護職の資格がない方が対象

## マツダレンタカー

■職種 レンタカー業務  
(洗車・車内清掃・車両の回送)

■雇用形態 パート

■年齢 不問

■待遇 時間給 750円

■就業場所 青葉区一番町・大町・二日町、若林区新寺・大和町、宮城野区扇町、岩沼市の7店舗

■就業時間 (1) 8:00~20:00  
(2) 8:00~19:00  
の間の2~3時間から8時間まで応相談

■加入保険 雇用・労災・健康・厚生

■免許資格 要普免

## 瀬戸勝パーキング

(有限会社 瀬戸勝)

■職種 駐車場管理スタッフ

■雇用形態 アルバイト

■年齢 不問  
(22時以降は18歳以上)

■待遇 時間給 750円  
※研修期間/時給700円

■就業場所 青葉区国分町

■就業時間 (1) 7:00~15:00  
(2) 15:00~23:00  
(3) 23:00~7:00

■加入保険 雇用・労災・健康・厚生

■免許資格 不問

## ワールド警備保障(株)

■職種 警備員

■雇用形態 パート

■年齢 18~62歳

■待遇 時間給 810~875円

■就業場所 青葉区二日町 ほか

■就業時間 (1) 8:00~17:00  
(2) 9:00~18:00  
(3) 10:00~21:00  
のうち、3時間からOK

■加入保険 雇用・労災・健康・厚生・財形

■免許資格 不問

## 株式会社 ビック・ママ

■職種 寸法直し・洋服の補修作業

■雇用形態 パート

■年齢 不問

■待遇 時間給 750~800円

■就業場所 青葉区北目町・国分町、泉区の3工場

■就業時間 9:00~18:00の間の5時間以上

■加入保険 雇用・労災  
\*労働時間数により加入保険がかわります

■免許資格 洋裁の実務経験

## 鈴木工業 株式会社

■職種 廃棄物の収集運搬・上下水道施設の清掃

■雇用形態 契約社員

■年齢 不問

■待遇 時間給 1,200円

■就業場所 若林区卸町東

■就業時間 シフト制  
早朝・深夜勤務あり

■加入保険 雇用・労災・健康・厚生

■免許資格 要普免  
大型自動車免許・  
移動式クレーン免許・  
フォークリフト免許  
あれば尚可

その他にも求人多数有り。求人に関する問い合わせ、連絡先は

**022-395-6364** (ワンファミリー仙台 求人担当)

就職のお悩み相談は、就労支援相談センター「わっくわあく」へ。電話 022-395-6323

## 「えんがわ」のつづき

## 軒先で見つけた コミュニティの芽

「みなし仮設の人たちが集まってお茶するの。おいでよ」  
6月下旬、友人の女性に誘われ、青葉区上杉にある花屋を訪ねた。  
そこに集まっていたのは、福島県南相馬市や気仙沼市、南三陸町、被災3県の沿岸部出身の人たち。それぞれが花屋わきに建てられたテナントの中で、会話を楽しみながら、くつろいでいた。  
「お茶会」のきっかけは、花屋を営む女性の呼びかけだった。震災直後にガソリンを求めて近くにやってきた人たちに、水やおにぎりを提供。明るく気さくな女性の人からひきつけられるように人が集い、徐々にその輪が広まったのだという。

◆ それから1年以上たって、隣に八百屋がオープンした。前日には、多くのお茶会の「有志」が集まり、準備に汗を流した。  
◆ 中には当日、八百屋の入りを飾りつけたり、手作りのチラシを店先に掲示したりして、彩を添えてくれた人もいた。有志の手伝いもあって八百屋は連日、盛況という。  
◆ 花屋の女性は言う。「商売もうまくないし、すごいことをしてるつもりもないの。みんなが集まって笑うことができれば、それでいいよ」。

◆ 太白区あすと長町のコミュニティ・ワークサロンの「えんがわ」ではちょうど同じころ、内職グループのメンバーが、ゴーヤの「グリーンカーテン」を取り付けてくれた。  
◆ ある日、内職の作業をしていたときのこと。仮設住

宅に寄付されたゴーヤのプランターが、5つあまっていくことが話題に上り、居合わせたみんなが「えんがわに植えよう」と意気投合。メンバーの一人がプランターをもう一つ約束を取り付け、翌日には別のメンバーが運び込んだ。  
◆ さらに翌日には、また別のメンバーが大きな脚立を担いでやってきて、瞬間に壁面にネットを取り付けた。利用者みんなが一つになることで、いとも簡単にえんがわに「緑」がもたらされた。

◆ 思い返せば、できたの「えんがわ」の扉を初めて開けたのは昨年の10月下旬のことだった。がらんとして、静まり返った室内には、塗料や資材の臭いが立ち込め、思わず顔をしかめたのを今も鮮明に覚えている。  
◆ どうすれば、この殺風景な空間を居心地良くできるのか。  
◆ 間もなく、スタッフが集まり、畳の設置や屋外の緑地化など、さまざまな企画を立てたが、内職などのプロジェクトが始まると、そんな話もどこへやら。それを9カ月後、「えんがわ」の利用者が、あつげなく変えてくれた。

◆ 「えんがわ」には今、心地よい空気が流れる。その理由は何なのか、はつきりとはわからないが、きつとみんなが集い、一歩ずつ歩んできた時の流れの中で、はぐくまれてきた「コミュニティ」の芽を花屋と「えんがわ」の軒先で見つけた。

(す)